

授業科目	子ども家庭支援論		授業形態	講義	単位数	2単位	
担当者	伊藤和雄						
ナンバリング	E42L146	開講時期	2年次後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	幼免：保育士：必修 主事任用：			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、保育所や施設の保育士にとっての家族支援を理解する。また、映像視聴やグループディスカッション等を通して、虐待、いじめ、不登校、引きこもり、貧困など、子どもと家族をめぐる問題や課題について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを説明できる。 ・種々の援助活動及び関係機関との連携についても説明できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション、子ども家庭支援の意義と必要性				
		内容	子ども家庭支援の意義、少子化社会対策を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	子ども家庭支援論の目的と機能				
		内容	保育所、幼稚園における子ども家庭支援の目的、機能、原則を学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P14～P24を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進				
	第4回	内容	子育て支援・次世代育成支援の背景、新制度の概要を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P26～P36を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
		内容	子育て家庭を支える社会資源と担い手、連携を学ぶ。				
	第5回	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P38～P48を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	保育の専門性を活かした子ども家庭支援論とその意義				
	第5回	内容	保育者の専門性、保育所保育指針が謳う子育て支援、認定子ども教育・保育要領における子育ての支援を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P50～P60を読む。				

	学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第6回	テーマ	子どもの育ちの喜びの共有
	内容	子どもの育ちの喜びを共有する意味、ツールを学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P62～P72を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第7回	テーマ	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
	内容	保育所保育指針からみる保育士に求められる視点、支援を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P74～P84を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第8回	テーマ	保育士に求められる基本的態度
	内容	保育士と保護者との信頼関係、バイステックの7原則について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P86～P96を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第9回	テーマ	家庭の状況に応じた支援
	内容	家庭の状況に応じた支援を行ううえで保育者に求められる姿勢を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P98～P108を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第10回	テーマ	地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力
	内容	子ども家庭支援と自治体、関係機関との連携・協力、災害時対応と地域関係機関との連携を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P110～P120を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第11回	テーマ	子ども家庭支援の内容と対象
	内容	子ども家庭支援形態、アプローチ、多文化背景をもつ家庭への支援を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P122～P132を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第12回	テーマ	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
	内容	保育所等が行う子ども家庭支援への期待、役割を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P134～P144を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第13回	テーマ	地域の子育て家庭への支援
	内容	地域の子育て家庭への支援の変遷、保育所における地域子育て家庭に対する支援を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P146～P156を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第14回	テーマ	要保護児童およびその家庭に対する支援
	内容	要保護児童の家族的背景、要保護児童とその家庭に対する支援のあり方を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 教科書 子ども家庭支援論 P158～P168を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。

	第 15 回	テーマ	まとめ、子育て支援に関する課題と展望
		内 容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いてまとめを行う。
		授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第 16 回	定期試験	
教科書・テキスト	子ども家庭支援論(松原康雄・村田典子・南野奈津子編著 中央法規出版)		
参考書・参考資料等	保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) 幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) また、授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の 方法・基準	授業におけるレポート・筆記試験及び出席状況により「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、専門的理解の程度(60%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習(各授業回約 30 分)、復習(各授業約 30 分)として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。(約 50 時間) 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 3 時間)		
備 考	—		
連絡先(質問等)	オフィスアワー火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	社会的養護 I		授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	菅原 温						
ナンバリング	E41L147	開講時期	1年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料、事例などを用いて、社会的養護の意義と目的、法（仕組み）、保育士における社会的養護の倫理と責務、ソーシャルワークを含む支援のあり方について学ぶ。加えて、映像視聴やグループディスカッション等を通じて、理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会的養護の意義、目的、仕組みを理解し、里親・各施設の養育の意義を理解できる。 保育士における社会的養護の倫理と責務、ソーシャルワークを含む支援のあり方の基礎を理解する。 「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	序章 社会的養護を学ぶために 第1章 現代社会における社会的養護の意義				
		内容	新たな社会的養護の基本的な考え方を理解する。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。また、序章を読んでおく。 復習： 社会的養護について、まったく知識のない人にわかるように説明できるようにまとめる。保育士に求められる視点、役割について考察する。				
	第2回	テーマ	事例1 代替的養育について「家庭養護」				
		内容	事例に触れて、その背景にあるもの、自分の考えをまとめてみる。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 親と暮らせない子どもの気持ち、子どもと暮らせない親の気持ちを考えてみる。 復習： 事例についてレポート作成する。				
		テーマ	第2章 現代社会における社会的養護のニーズ				
	第4回	内容	「家庭」について理解し、子どもの養育にどのような影響を与えるかについて学ぶ				
		授業時間外学修	予習： 第2章に目を通しておく。 復習： 「家庭とは」「子どもの養育にとっての家庭環境」などについてまとめ、近年の児童養護問題や社会的養護のニーズについて考察する。				
	第4回	テーマ	事例2 「児童相談所」				
		内容	社会環境の変化や児童養護問題の変化について理解し、求められる社会的養護ニーズについて考える。				
	第4回	授業時間外学修	予習： 第2章と第6章に目を通しておく。 復習： 事例2のレポートを作成する。				

第5回	テーマ	第3章 社会的養護の歴史の変遷（日本を中心に）
	内容	社会的養護のあゆみを知り、今日の現状までのプロセスや子ども観の変遷から社会的養護の本質にふれ、理解を深める
第6回	授業時間外学修	予習： 第3章に目を通しておく。 復習： 制度のなかった時代の先駆者たちの原動力となった思いや出来事について考えてみる。日本の子ども観、児童福祉法における子どもの位置づけを考えてみる。
	テーマ	子ども観の変遷と欧米諸国での取り組みから学ぶ
第7回	内容	欧米諸国での歴史の変遷や取り組みについて学ぶ（主に、イギリス、アメリカ）
	授業時間外学修	予習： イギリスやアメリカの文化や子ども家庭福祉について調べてみる。 復習： 子ども観の変遷や欧米諸国の社会的養護のキーワードを整理する。
第8回	テーマ	第4章 子どもの権利① 児童の権利に関する条約を中心に
	内容	子どもの権利（子どもの基本的人権）や権利保障の視点・仕組みについて理解する。
第9回	授業時間外学修	予習： 第4章に目を通しておく。 復習： 児童の権利に関する条約のプロセスや特徴についてまとめる。
	テーマ	第4章 子どもの権利② 子どもの権利擁護
第10回	内容	権利保障の視点・仕組みについて学ぶ
	授業時間外学修	予習： （子どもに対し）どのようなときに権利侵害となるか考えてみる。 復習： 里親・施設で暮らす子どもたちの権利を子ども、養育者それぞれの立場から考える。子どもの権利条約と国内関連法規の関連性をまとめる。わが国の社会的養護の課題を考える。
第11回	テーマ	第5章 社会的養護にかかわる法令の理解
	内容	社会的養護に関連する法律を理解する
第12回	授業時間外学修	予習： 第5章に目を通しておく。 復習： 法律体系を整理する。児童虐待問題、障がい児の福祉についての対策についてまとめる。
	テーマ	第6章 社会的養護のしくみと実施体制の理解
第13回	内容	社会的養護の体系、それぞれの目的と役割について、理解を深める。
	授業時間外学修	予習： 第6章に目を通しておく。 復習： 社会的養護の体系について、施設養護（家庭的養護を含む）、家庭養護、在宅養護、相談機関それぞれの目的と役割まとめる。
第14回	テーマ	第7章 家庭養護の基本原則と実際 第8章 施設養護の共通基盤と基本原則
	内容	家庭養護や施設養護の原理、展開過程、インケアの実際についてまとめる。
第15回	授業時間外学修	予習： 第7章、第8章に目を通しておく。 復習： 里親等への理解を深めるとともに、施設養護に個別化、「自立すること」についてまとめる。各年代の子どもの特性、各種施設の支援内容と課題について整理する。
	テーマ	第9～11章 施設養護（児童養護施設、障害児施設、治療・行動系施設）の実際
第16回	内容	子どもたちを取り巻く状況の変化を理解し、支援のあり方を学ぶ。児童養護施設、

	回		障害児施設、治療・行動系施設の目的と現状を理解する。	
	授業時間外学修		予習： 各種の支援がどのように機能しているか調べる。 復習： 様々な背景の違いや、障害のある子どもへの支援など、各種施設、各種支援機関において、専門職として求められるものについて考察してみる	
	第13回	テーマ		第12章 在宅支援 ～地域支援機能の充実～
		内容		社会的養護と在宅の子ども家庭支援
		授業時間外学修		予習： 第12章に目を通しておく。 復習： 地域の社会資源を調べてみる。
	第14回	テーマ		第13章 社会的養護にかかわる専門職 第14章 施設の運営管理
		内容		専門職の役割を理解するとともに、知識、技術、価値・倫理について理解する。 〈自己覚知〉〈ソーシャルワーク〉などの内容にも触れる
		授業時間外学修		予習： 第13～15章に目を通しておく。 復習： 自分の価値観と専門的価値を比較し、自分の価値観の傾向を考察する。
	第15回	テーマ		第15章 社会的養護の動向と方向性 まとめ（全体の復習）
		内容		施設運営（しくみの根幹にあるもの）を理解し、組織で動く全体像をつかむ。 社会的養護の将来像をまとめてみる。
授業時間外学修			予習： 14回の授業を振り返り（テキスト熟読） 復習： 社会的養護の問題や課題について自分の考えをまとめる。	
	第16回		筆記試験	
教科書・テキスト	保育と社会的養護Ⅰ 最新版（みらい）			
参考書・参考資料等	保育小六法 2022年版（みらい） その他、授業中に適宜資料を配布する。			
成績評価の方法・基準	定期試験と数回の授業後の課題レポートにより、社会的養護の意義や目的、仕組みの理解度、保育士としての人間理解の重要性や倫理と責務、支援のあり方の理解度（60%）、自身の課題に気づく力を身につける「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」の獲得度（30%）、授業参加度（10%）で評価する。			
課題に対するフィードバックの方法	授業の終わりに出す課題については、次回の授業にて解説する。定期試験については採点后講評する。			
授業時間外学修	予習各授業回 30分・復習各授業回 30分 として、授業内で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約20時間） 定期試験結果を踏まえて、自己評価するとともに既習内容の理解を深める（3時間）			
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、福祉系大学大学院で修士課程を修了後、社会福祉施設等で実務を経験している。児童福祉分野では児童指導員、ソーシャルワーカー、相談員としての経験をもち、現在に至る。			
連絡先（質問等）	短大教務課へ質問等を頂き、担当職員からの連絡により、対応することとしたい。 その他、授業前後の時間に教室等にて質問等を受け付ける。			

授業科目	子ども家庭支援法		授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	小林美佐子						
ナンバリング	E41L149	開講時期	1年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	人は出生後、乳幼児期から老年期に至るまで発達段階があり、それぞれの段階に応じたライフサイクルがある。生涯をその人なりに自己実現できる社会生活を送るには、家族や家庭、地域社会などの環境の関与が大きい。教科書や配布資料、グループディスカッション等を通して自主的に広く学んでいく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達に関する基礎的な知識を習得し、子どもの初期経験の重要性及び発達課題等を理解できる。 ・家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解できる。 ・子育て家庭をめぐる現代社会の状況および子どもの精神保健の課題について理解できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	乳児期の発達				
		内容	乳児期の心身の発達は、全人生の中で特に目覚ましいものがある。運動発達、社会性の発達、言葉の発達などについてその特徴を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：教科書を熟読し、目覚ましい発達過程と保育士のかかわりを理解する。 復習：教科書、資料、授業内容をもとに、乳幼児期の発達の要点を整理する。				
	第2回	テーマ	幼児期の発達				
		内容	幼児期の基本的な発達特徴である「認知」「言語」「社会性」「自我の発達」を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：教科書を熟読し、発育区分と心身の発達の特徴を理解する。 復習：保育士として、幼児期の心身の発育・発達、発達阻害要因を整理する。				
	第3回	テーマ	学童期の発達				
		内容	学童期へ移行するプロセスで起こる発達の特徴である「認知」、「社会性」、「自己概念」を知り、必要な教育支援について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：教科書を熟読し、学童期の発達課題と教育支援について理解する。 復習：教科書、資料、授業内容をもとに要点や疑問点を整理する。				
	第4回	テーマ	青年期の発達				
		内容	中学生から大学性くらいをさし、子ども時代から大人への移行期にあたる。青年期の身体的発達、認知発達、対人関係の変化、青年期の問題行動、また対人関係の変化により生じる臨床的疾患も新たな課題として学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：教科書を熟読し、青年期の心身の発達課題と臨床的課題を理解する。 復習：教科書、資料、授業内容をもとに、青年期の特徴の要点や疑問点を整				

			理する。
第5回	テーマ	成人期・中年期の発達	
	内容	成人期とは、職業に就く、自らの家庭を築いて子どもを産み育てるなど、社会のメンバーとしての責任を担い、さまざまな役割を果たす時期である。中年期とは、転職や失業、離婚や親の介護・死などを経験し、配偶者や子ども、親、他者との関係性が変化していくことで、自分の生き方を見つめ直す時期であることを学ぶ。	
	授業時間外学修	予習 : 成人期、中年期の発達課題や社会的役割、ライフスタイルを理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。	
第6回	テーマ	高齢期の発達	
	内容	わが国では超高齢化が進んでおり、数年後には全人口の3分の1が高齢者である時代を迎える。少子化と労働人口の減少とあいまって、将来は、高齢者もさまざまな職場において継続して働く社会になることが推測されるなどを学ぶ。	
	授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、生涯発達における高齢期の課題と生きがいをもたらすための「クオリティ・オブ・ライフ」とはについて理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。	
第7回	テーマ	家族・家庭の意義と機能	
	内容	家族や家庭の概念は、社会構造の変化や住む人々価値観の多様化により、歴史的にこれまで担ってきた役割や意義が違ってきたことを学ぶ。	
	授業時間外学修	予習 : 生活の基盤である「家族」や「家庭」の意義と機能及び価値観の多様化の中で、お互い認め合いながら生活を維持していく重要性を学ぶ。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。	
第8回	テーマ	家族関係・親子関係の理解	
	内容	家族は私たちにとって最も身近な存在であるが、そもそも家族とは何だろうか。グループディスカッションの中から自ら考えて、理解を深めていく。	
	授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、個人にライフサイクルがあるように、家族にもまたライフサイクルがあることを理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、ライフサイクルについて整理する。	
第9回	テーマ	子育ての経験と親としての育ち	
	内容	保護者の気持ちを深く理解し、園と保護者の相互の信頼関係を構築することが必要である。保護者の多くが親であることから、親の意識や価値観の多様性を理解し、「親としての育ち」の支援について学ぶ。	
	授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、保育者と保護者の関係構築について理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。	
第10回	テーマ	子育てを取り巻く社会的状況	
	内容	育児不安を持つ家庭、夫婦共働きの家庭、孤立しがちな家庭などいろいろ課題を持って子育てしている家族に対して、現在地域の中にはどのような支援体制があるのかを、教科書や参考資料「母子保健法で施行されている母子支援体制や国民衛生の動向」などを参照しながら学ぶ。	
	授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、母子保健法、国民衛生の動向等を参考にして理解す	

	学修	る。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
第11回	テーマ	ライフコースと仕事・子育て
	内容	その時代の人口構成、生活水準、経済状態、社会制度の影響、災害等大きな出来事など、変動する社会の中で人々が個々の人生をどのように歩むのかを学ぶ。
	授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、ライフコースの概念について理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとにライフコースの概念を整理する。
第12回	テーマ	多様な家庭とその理解
	内容	近年ますます多様化する家庭の有様を、家族の関係に焦点をあてて見つけ、課題の早期発見と具体的な支援対策及び、外部機関との連携を含めて学ぶ。
	授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、個人や社会の価値観の多様化について理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、要点や疑問点を整理する。
第13回	テーマ	特別な配慮を必要とする家庭への支援
	内容	養育者のメンタルヘルスや子どもの障害、虐待、ネグレクトなど不適切な養育環境と家族が機能不全に陥っている状態に対して、どのような支援が適切かを学ぶ。
	授業時間外学修	予習 : 教科書や既習内容、一般的情報を参考に、「障害とは」について理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
第14回	テーマ	子どもの生活・生育環境とその影響
	内容	子どもの発達には生得的なものもあるが、与えられた環境に依存する部分も大きい。年齢に応じて必要とする環境を設定したり、また設定できない時はどのような影響があるかを学ぶ。
	授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、発達の過程には環境が大切であることを理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
第15回	テーマ	子どものこころの健康にかかわる問題
	内容	子どもの習癖は必ずしも心理的影響でおこっているわけではないが、発症時期、症状の強さ期間の長さによって、心理面や発達に影響することがあることを学ぶ。
	授業時間外学修	予習 : 教科書を熟読し、子どもの習癖の内容と心理・発達との関係を理解する。 復習 : 教科書、資料、授業内容をもとに、知り得た知識の要点を整理する。
	第16回	定期試験
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの家庭支援の心理学(中央法規) ・国民衛生の動向(厚生労働省統計協会) 	
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの保健Ⅰ(学建書院) ・子どもの保健Ⅰ(ななみ書房) 	
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験により、各単元の理解度(70%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(10%)、授業参加度(20%)で評価する。 	
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業内容やプリントの既習内容をもとに整理する。 ・レポートや試験答案は採点后、講評を行う。 	
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画で示された内容を予習で確認し、復習で自分の知識としてまとめる。(1時間) 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の結果を踏まえ、自己評価するとともに既習内容の見直しを行う。(1時間)
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・実務経験のある教員による授業科目である。 <p>担当教員は県立病院小児科病棟の看護師として小児科棟において、通算 13 年間、急性・慢性疾患児及び低出生体重児の看護に従事した経験と、県立の看護学校において臨床指導者として 4 年間、専任教員として 3 年間教育に従事した経験を持つ。これらの経験と種々の新しい情報を織り交ぜながら、子どもたちの望ましい養育環境・社会環境の在り方等について、一緒に考えていくような授業を行う。</p>
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。

授業科目	子どもの保健 I		授業形態	講義	単位数	2 単位	
担当者	小林美佐子						
ナンバリング	E41L150	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	乳幼児期は人の一生の中で特に心身の発達が目覚ましい時期である。発達各期に罹患しやすい疾病、先天性疾患、障害児、また同時期に発生しやすい事故や災害等を知る。発達段階に応じた保育や教育は、将来社会人としての人格形成まで連続していることを、教科書や話し合いの中から主体的に学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と保健の意義を理解する。 ・子どもの心身の発育・発達について年齢ごとの特徴が理解できる。 ・子どもの主な疾病と、年齢ごとの罹り易い感染症の特徴と予防法について理解できる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。 						
授業計画	第 1 回	テーマ	生命の保持と情緒の安定に関わる保健活動の意義と目的				
		内容	生物としてのヒトと人間の違いを理解する。人間形成に特に必要なことは、「生命の保持」と、「情緒の安定」であることを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：教科書を熟読し、「生命の保持」と「情緒の安定」の意味を理解する。 復習：資料と授業内容及び教科書をもとに、要点を整理する。				
	第 2 回	テーマ	健康の概念と健康指標				
		内容	「健康とは」について、グループディスカッションしながら自分の考えをまとめる。				
		授業時間外学修	予習：世界保健機関（WHO）憲章の提唱する「健康とは」を熟読し理解する。 復習：グループディスカッションで得られた「健康の概念」を整理する。				
	第 3 回	テーマ	現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策				
		内容	子どもの健康や母子保健施策を統計上から、諸外国と比較をしながら学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：教科書を熟読し、詳細な統計は「国民衛生の動向」を参考にする。 復習：資料と授業内容及び教科書をもとに、統計上知りえた要点を整理する。				
	第 4 回	テーマ	地域における保健活動と子ども虐待防止				
		内容	「児童虐待防止法」、「地域保健機関同士の連携」と「早期支援体制」について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：教科書を熟読し、虐待の内容とその支援体制について理解する。 復習：虐待にいたる要因、早期発見、支援体制等について、要点を整理する。				
	第 5 回	テーマ	身体発育および運動機能の発達と保健				
		内容	身体的・運動機能的発育・発達の過程とその個人差を知り、適切な対応を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：子どもの年齢に応じた心身の発育・発達の特徴と個人差を理解する。				

	学修	復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、要点を整理する。
第6回	テーマ	生理機能の発達と保健
	内容	人間の生理機能(内科系、外科系、神経系、免疫系など)について具体的に学ぶ。
	授業時間外 学修	予習 : 人間の主な臓器の名称や、その役割と働きについて理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、人間の生理機能の要点を整理する。
第7回	テーマ	健康状態の観察および心身の不調等の早期発見
	内容	乳幼児の健康時のバイタルサイン(脈拍、呼吸、体温)と、症状の観察を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習 : 乳幼児に多い主な疾患名その症状の観察、その対応について理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、疾患名と症状の観察点を整理する。
第8回	テーマ	発育・発達の把握と健康診断
	内容	健康診断から、子どもの発育・発達の個別的状況を把握でき、その重要性を知る。
	授業時間外 学修	予習 : 健康診断の意義と子どもの発育・発達、個人差を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、健康診断の意義を整理する。
第9回	テーマ	保護者との情報共有
	内容	保護者と保育者との「気づき」の「ずれ」を知り、互いの情報共有の大切さを学ぶ。
	授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、「ずれ」が生じる要因はどこにあるのかを理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、「ずれ」が生じる要点を整理する。
第10回	テーマ	主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気
	内容	新生児期の低出生体重児の特徴、先天性疾患や感染性疾患の病態生理について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、代表的疾患名(先天性、後天性、感染性)を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、新生児各疾患の要点を整理する。
第11回	テーマ	主な疾病の特徴② 循環器、呼吸器、血液、消化器の病気
	内容	循環器、呼吸器、血液、消化器疾患の病態生理と症状の観察、治療について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習 : 各臓器の働きと障害された時の疾患名、症状や治療方法を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、疾患名と症状、治療を整理する。
第12回	テーマ	主な疾病の特徴③ アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気
	内容	子どものアレルギー疾患や免疫疾患の病態生理と症状の観察、治療について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、特に子どものアレルギー疾患と免疫疾患を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、疾患名と症状、治療を整理する。
第13回	テーマ	主な疾病の特徴④ 脳の病気、その他の病気
	内容	中枢神経(脳)の病気、運動器、皮膚、目、耳、小児がんの病態生理について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、臓器名や働き、障害を受けた時の疾患名を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、疾患名と症状、治療を整理する。
第14回	テーマ	主な疾病の特徴⑤ 感染症
	内容	感染症の成立(感染源、宿主、感染経路)と予防接種の意義について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習 : 保育所における感染対策(ガイドライン)、登園基準等理解する。 復習 : 特に予防接種の時期と種類について、月齢と合わせて整理する。
第	テーマ	子どもの疾病の予防と適切な対応

	15 回	内 容	免疫力の弱い乳幼児を感染症から守るために、疾病と予防対策について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習 : 教科書を熟読し、保育所における衛生管理の方法を理解する。 復習 : 資料と授業内容及び教科書をもとに、要点を整理する。
	第 16 回	定期試験	
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの保健（中央法規） ・国民衛生の動向（厚生労働省統計協会） 		
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの保健 I（ななみ書房） ・子どもの保健 I－子どもの健康と安全を守るために－（学建書院） 		
成績評価の方法・基準	定期試験により各単元の理解程度（70%）、「コミュニケーション能力」(1) 獲得の程度（20%） 授業参加度（10%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業内容や配布資料で既習内容を確認・整理する。 ・試験答案、レポートは採点后講評を行う。 		
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）、として、授業計画で示された内容で実施する。 ・定期試験に向けて、教科書や配布資料を見直し、既習内容を確認する。（約 3 時間） ・保育に関連した文献や新聞・雑誌等種々の情報誌を読み、社会の動向を知る。（20 分） 		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・実務経験のある教員による授業科目である。 <p>担当教員は県立病院の看護師として、小児科病棟に通算 13 年間勤務し、急性・慢性疾患児及び低出生体重児の看護に従事した経験を持つ。</p> <p>県立の看護学校において臨床指導者として 4 年間、専任教員として 3 年間教育指導にあたる。</p> <p>これらの実務経験を生かして、乳幼児の適切な保育環境、罹患しやすい疾患、感染予防や予防接種等について、事例を挙げながら授業を行う。</p>		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受ける		

授業科目	子どもの保健Ⅱ		授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	小林美佐子						
ナンバリング	E42L151	開講時期	2年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	乳幼児が集団生活する園では感染症の罹患や事故の発生は避けられない。そのため集団を対象とした健康管理や予防法、事故に対する対処法と危機管理等を学ぶ。また良好な保育環境を整備するための法律や、地域内の子育てサポート体制、外部医療機関との連携体制等、授業や参考書、配布資料、意見交換（グループディスカッション）を参考にしながら、主体的に広く学びを深めていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育は子どもの発達段階に応じて「養護と教育を一体化」した考えで、実践する業務であることを理解できる。 ・少子高齢化、多様化する価値観、家族形態の変化の中で成長していく子どもたちの心身へのかかわり、望ましい養育環境、虐待への早期発見と対策など、社会の中に内在する種々の課題を理解できる。 ・子どもに多い事故を知り、適切な対応や救急・応急処置・予防対策について理解できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	保健における養護と教育の一体性				
		内容	子どもの日常生活は幼いほど養護的な部分が多く、成長と共に教育的アプローチが多くなっていく。養護と教育の概念と保育士の役割を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、「養護と教育の意義」の違いと関係について理解する。 復習： 資料、授業内容をもとに要点、理解できた知識を整理する。				
	第2回	テーマ	子どもの健康増進と保育環境				
		内容	子どもの健康状態を把握（健康診断、健康観察）し、適切な保育環境を考える。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、健康状態の観察法や保育環境について理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。				
		テーマ	子どもの生活習慣と心身の健康				
	第4回	内容	子どもが基本的な生活習慣を身につけることは健康維持に必須である。また子どもの「遊び」は、心身の発育・発達に大きな影響を及ぼす大切な習慣であることを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 参考書をもとに、基本的な生活習慣の形成と遊びの効果について理解する。 復習： 保育実習で学んだ既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。				
	第4	テーマ	子どもの発達援助と保健活動				
		内容	年月齢に応じた発達の特徴を知り、子どもの個性と、能力を伸ばす術を学ぶ。				

回	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、年月齢に応じた子どもの発達の特徴と課題を理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
第5回	テーマ	体調不良や傷害が発生した場合の対応
	内容	体調不良になった子どもの観察と、適切で迅速な応急手当について学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、子どもの日常一般的にみられる体調不良の症状を知る。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
第6回	テーマ	感染症の予防と対応・予防接種
	内容	感染症の基礎的知識と予防方法、うがい・手洗い法などの具体的実践方法と予防接種の接種時期やワクチンの種類を学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、感染症の成立や予防方法、各種消毒法について理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
第7回	テーマ	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
	内容	慢性疾患児、肢体不自由児、医療的ケアの必要とする子どもへの対応について病状や治療法（リハビリテーション）、各医療機関と施設間の連携等について学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、個別的ケアを必要とする子どもについて理解する。 復習： 教科書、各種資料、授業内容をもとに要点、疑問点を整理する。
第8回	テーマ	乳児への適切な対応①
	内容	乳児期は心身ともに著しく発達する時期であり、ことに環境の変化は身体への負担が大きい。これらの乳児の特徴を知り、適切な保育方法を学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、乳児期の心身の特徴と適切な保育について理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
第9回	テーマ	乳児への適切な対応②
	内容	乳児の抱き方、オムツ交換、衣服の着脱、沐浴など乳児の日常生活の世話の実際等について、乳児の身体的特徴を考慮しながら手技を学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、乳児の日常生活の世話について、その実際を理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
第10回	テーマ	障害のある子どもへの適切な対応
	内容	身体障害や知的障害、また発達障害のある子どもの人格を尊重し、その子どもにあった、適切な接し方や社会資源の活用方法について学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、障害の種類、医療や福祉施策との連携を理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
第11回	テーマ	事故防止及び健康安全管理に関する組織的取り組み
	内容	子どもの事故の年齢別特徴を知り、適切な予防・対策を学ぶ。また危機管理に関しては個人的ばかりでなく、組織的な取り組みが必要であることを学ぶ。
回	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、子どもの事故の特徴と予防策について理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
第12回	テーマ	救急処置及び救急蘇生法の習得
	内容	子どもの救命率を高めるには、傷害や事故の程度を迅速に判断できる知識と、一次救命、二次救命処置対応が適切に実施できる技術力の重要性を学ぶ。

	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、なぜ救命に迅速さが求められるかを理論的に理解する。 復習： 救急救命士より学んだ実技と理論を統合させて、知識として習得する。
第 13 回	テーマ	保育における看護と応急処置
	内容	保育中における、けが、誤飲、誤嚥、熱中症、溺水などへの対応や救命処置、保護者への連絡、関係医療機関との連携など、具体的対策について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、突然の事故に対する対処方法について理解する。 復習： 救急救命士より学んだ実技と理論を統合し、知識として習得する。
第 14 回	テーマ	災害への備えと危機管理
	内容	自然災害、大規模な火災、爆発などの災害や事故は生活基盤の崩壊、身体的損傷や精神的喪失感を引き起こす。乳幼児をこれらの災害から守るためには常日ごろの防災対策や災害訓練が大切である。これまでの災害の具体例を示しながら授業を行う。
	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、災害から子ども達を守るための適切な対策を理解する。 復習： 過去の検証事例や既存の知識と授業内容もとに、対策の要点を整理する。
第 15 回	テーマ	子どもの養育環境と心の健康問題
	内容	子どもの発達には身体発育も運動発達も知的発達も全て関連している。これらの発達には大きく養育環境が関わっている。「望ましい養育環境」についてグループワークの中から学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 参考書をもとに、発達に影響を与える養育環境等について理解する。 復習： 保育実習で学んだ事や、既存の知識と授業内容をもとに、要点を整理する。
	第 16 回	定期試験
教科書・テキスト	特に指定しない。適宜、授業時にアナウンスを行う。	
参考書・参考資料等	子どもの保健 第7巻 改訂2版（全国社会福祉協議会） 子どもの保健Ⅰ（1年前期）・子ども家庭支援法（1年後期）の資料等。 その他、関連資料は授業の中で配布する。	
成績評価の方法・基準	定期試験により、各単元の理解の程度（70%）、「自分で考え、実践できる能力」（4）獲得の程度（10%）、授業参加度（20%）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法	レポートや試験答案は採点后、講評を行う。 授業内容や配布資料、各種知り得た情報等をもとに、知識として習得する。	
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> 予習（30分）・復習（1時間）を自己学習として実施する。 定期試験の結果を踏まえ、自己評価するとともに既習内容の理解を深める。（2時間） 	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 実務経験のある教員による授業科目である。 <p>担当教員は県立病院の看護師として小児科病棟において、通算13年間、急性・慢性疾患児、低出生体重児の看護の実務経験と、また県立の看護学校において臨床指導者として4年間、専任教員として3年間教育指導の経験を持つ。</p> <p>これら実務経験を生かして、乳幼児の感染症や予防、障害のある子どもへの対応、災害対策、救命方法等について具体的事例を挙げながら授業を行う。</p>	
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	子どもの食と栄養		授業形態	演習	単位数	2 単位	
担当者	奥山留美子						
ナンバリング	E41S152	開講時期	1年次 前期・後期	授業時間数	60 時間	授業回数	30 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> 子ども期の特性である発育・発達の基礎を理解し、さらに実践力を身につける。 テキスト・DVD視聴や、プレゼンテーション、グループワークを通して理解を深める。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 栄養バランスのとれた食生活とは何か、具体的な食事法を理解する。 子ども期の発育、発達と栄養の関係を理解し、離乳食、幼児食の実習を通し、各ステージにおける望ましい食べ方を学ぶ。 子ども達に食の大切さ、楽しさを指導する1つの方法として食育紙芝居を作成する。 〔前期〕「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活・社会についての知識・理解」を身につける。 〔後期〕「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	子どもの栄養と食生活の意義				
		内容	成人期とは異なる子どもの栄養と食生活の特徴を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： テキストの第1章を読んでくる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	子どもの食生活の現状と課題①				
		内容	子ども達の食生活の現状を、資料を通し理解を深める。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 現代の子どもの食をとりまく環境について新聞、テキストなどを通し考えてみる。 復習： 授業内容の感想をまとめる。				
		テーマ	子どもの食生活の現状と課題②				
	第4回	内容	各自子どもの食に関する課題を見つけ、レポートを作成し、プレゼンテーションを行う。				
		授業時間外学修	予習： 子どもの食生活の問題点を探り、レポートにまとめる。 復習： 発表者の内容についての感想をまとめる。				
	第4回	テーマ	子どもの食生活の現状と課題③				
		内容	各自子どもの食に関する課題を見つけ、レポートを作成し、プレゼンテーションを行				

	回		う。
	授業時間外 学修	予習： 復習：	子どもの食生活の問題点を探り、レポートにまとめる。 発表者の内容についての感想をまとめる。
第 5 回	テーマ		栄養に関する基礎知識
	内 容		栄養学の基本的理論を学び、健全な成長のためには、それがとても重要であることを理解する。
	授業時間外 学修	予習： 復習：	テキスト第3章を読んでくる。 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 6 回	テーマ		バランスのとれた食事法
	内 容		どのような食品をどれだけ摂取するとよいかを学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 復習：	テキスト第3章を読んでくる。 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 7 回	テーマ		四郡点数法の基本①
	内 容		バランスのとれた理想的な食事法である「四郡点数法」について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 復習：	食品80キロカロリーミニガイドを読んでくる。 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ		四郡点数法の実践②
	内 容		実際に「四郡点数法」を使い、毎日の食事を点数化する。
	授業時間外 学修	予習： 復習：	連続する3日間の食事内容を四郡点数法で分析する。 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ		子どもの発育、発達と栄養
	内 容		子どもの身体発育や食べる機能の発達について理解する。
	授業時間外 学修	予習： 復習：	テキスト第2章を読んでくる。 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ		胎児期の食生活
	内 容		胎児期の成長を学習し、胎児が良好な栄養状態を維持するための食生活について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 復習：	テキスト第7章を読んでくる。 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 11 回	テーマ		乳児期の食生活
	内 容		食機能の発達が著しい時期の特徴について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 復習：	テキスト第4章を読んでくる。 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ		離乳食の食生活
	内 容		「離乳の支援ガイド」を理解し、必要性、進め方について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 復習：	テキスト第4章を読んでくる。 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 13 回	テーマ		幼児期の食生活
	内 容		食生活の基礎が形成される時期であることを学ぶ。
	授業時間外	予習：	テキスト第5章を読んでくる。

		学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第14回		テーマ	学童期の食生活
		内 容	この時期特有の心身の特徴を理解し、栄養、食生活について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： テキスト第6章を読んでくる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第15回		テーマ	まとめ
		内 容	子どもの食に関わる意義を再確認し、これからのかかわり方についてメッセージを伝える。
		授業時間外 学修	予習： 全体を通して疑問点をまとめてくる。 復習： メッセージを受け止め、今後のかかわり方について再確認する。
第16回		テーマ	実習オリエンテーション
		内 容	なぜ実習が必要なのか、実習の意義、内容について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習を行う上での疑問点、不安な事などをまとめてくる。 復習： 実習の意義、内容について整理する。
第17回		テーマ	レシピ、調理の基本
		内 容	レシピの読み方、調理器具の取り扱い方などの基本を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： レシピを読んでくる。 復習： レシピの疑問点をまとめる。
第18回		テーマ	離乳食実習①
		内 容	離乳食初期の調理を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： レシピを読んでくる。 復習： 実習を振り返り、自己評価レポートをまとめる。
第19回		テーマ	離乳食実習②
		内 容	離乳食初期の調理を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： レシピを読んでくる。 復習： 実習を振り返り、自己評価レポートをまとめる。
第20回		テーマ	離乳食実習③
		内 容	離乳食初期の調理を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： レシピを読んでくる。 復習： 実習を振り返り、自己評価レポートをまとめる。
第21回		テーマ	幼児食実習①
		内 容	幼児食の調理を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： レシピを読んでくる。 復習： 実習を振り返り、自己評価レポートをまとめる。
第22回		テーマ	幼児食実習②
		内 容	幼児食の調理を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： レシピを読んでくる。 復習： 実習を振り返り、自己評価レポートをまとめる。
第23回		テーマ	幼児食実習③
		内 容	幼児食の調理を学ぶ。

	回	授業時間外 学修	予習： グループ毎に自分達で献立を作成する。 復習： 実習を振り返り、自己評価レポートをまとめる。
	第 24 回	テーマ	行事食実習
		内 容	ある行事を設定し、日常食とは違う調理、盛りつけなどを学ぶ。
	回	授業時間外 学修	予習： 自分達でメニューを考え、食材等も準備する。 復習： 実習を振り返り、自己評価レポートをまとめる。
	第 25 回	テーマ	食育の基本と内容①
		内 容	食育の必要性を理解し、「食を営む力」が形成されていくことを学ぶ。
	回	授業時間外 学修	予習： テキスト第10章を読んでくる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 26 回	テーマ	食育の基本と内容②
		内 容	「今こそ食育を」という資料を使い、なぜ食育が必要なのかを学び、グループディスカッションを行う。
	回	授業時間外 学修	予習： 資料を読んでくる。 復習： 感想をレポートにまとめる。
	第 27 回	テーマ	食育紙芝居演習
		内 容	食育紙芝居を読み、内容、書き方などを学ぶ。
	回	授業時間外 学修	予習： 図書館にある食育紙芝居を読んでみる。 復習： 食育紙芝居の構成、絵などについて考えてみる。
	第 28 回	テーマ	食育紙芝居製作発表会①
		内 容	実際に製作した紙芝居をひとりひとり発表する。
	回	授業時間外 学修	予習： 食育紙芝居を製作して、読み方も練習してくる。 復習： 発表者の紙芝居についての感想をまとめる。
	第 29 回	テーマ	食育紙芝居製作発表会②
		内 容	実際に製作した紙芝居をひとりひとり発表する。
	回	授業時間外 学修	予習： 食育紙芝居を製作して、読み方も練習してくる。 復習： 発表者の紙芝居についての感想をまとめる。
	第 30 回	テーマ	食育紙芝居製作発表会③
		内 容	実際に製作した紙芝居をひとりひとり発表する。
	回	授業時間外 学修	予習： 食育紙芝居を製作して、読み方も練習してくる。 復習： 発表者の紙芝居についての感想をまとめる。
教科書・テキスト	子どもの食生活（ななみ書房） 八訂食品80キロカロリーミニガイド（女子栄養大学）		
参考書・参考資料等	今こそ食育を（法研）		
成績評価の方法・基準	課題レポート、作品により専門的理解の程度（40%）、専門的修得度（40%）、〔前期〕「コミュニケーション能力」（1）・〔後期〕「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（10%）、授業参加度（10%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポート、作品については採点后講評する。		

授業時間外学修	予習（20分）、復習（20分）として授業計画で示された内容を実施する。 課題のレポート作成（約20時間）食育紙芝居製作（約50時間）
備考	—
連絡先（質問等）	授業前後に教室にて質問を受け付ける。

授業科目	保育内容総論 [R.4 入学者]		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	花田嘉雄						
ナンバリング	E42S153	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関わる全般的なことを学ぶ授業になる。一つの事例について各自の経験を話し合い、解決方法を探るといったグループワークを行いながら、自分自身の保育観を養う。また、教育実習 I の経験を踏まえながら、責任実習に向けた日案や部分案作成のポイントについて学ぶ。 ・課題遂行においては、手書きの他に、スマートフォン等から Google form への回答の記入を求める場合もある。なお、その場合は当該授業内でフィードバックする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ・現在の保育が抱える諸問題を考察する。 ・遊びをもとにした保育内容と5領域とのつながりを考えながら、指導計画（日案）を立案する。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション・コミュニケーションについてのグループワーク				
		内容	グループワークを通して、保育や福祉に携わる人に求められるコミュニケーション能力について考える。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを読んでおく。 復習： コミュニケーション能力についての簡易レポートをまとめて提出する。				
	第2回	テーマ	保護者との連携について				
		内容	子育て支援についての概要を学び、保護者との連携についてのシミュレーションをグループワークとして行う。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 保育所保育指針 P.36～37 を熟読する。 復習： 保護者との連携についての簡易レポートをまとめて提出する。				
		テーマ	幼児教育の思想について				
	第4回	内容	倉橋惣造の思想に触れる。				
		授業時間外学修	予習： 倉橋惣造について調べ学習をする。 復習： Google form による課題を記入して提出する。				
	第4	テーマ	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）				
		内容	保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまで				

	回		に育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針 P. 10～12 を熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 5 回	テーマ		保幼小連携について①
	内 容		小1プロブレム等の現状と、とその対策としての取り組みや連携の現状を理解する。
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針 P. 30～31 を熟読する。 復習： 保幼小連携についての簡易レポートをまとめて提出する。	
第 6 回	テーマ		災害対策について
	内 容		震災時の保育士の対応についての DVD を基に、災害対策や避難訓練等の大切さを学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 身近な災害について考えておく。 復習： 災害対策についての簡易レポートをまとめて提出する。	
第 7 回	テーマ		子育てをめぐる現状と課題について
	内 容		子育てをめぐる現状と課題、子ども子育て支援新制度についての概要を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 子ども子育て支援新制度について調べ学習をする。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 8 回	テーマ		環境を通して行う保育
	内 容		保育における環境や環境整備についての概要を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針 P. 5～6 を熟読する。 復習： 保育を行う際の環境整備についての簡易レポートをまとめて提出する。	
第 9 回	テーマ		地域社会との連携と園行事について
	内 容		地域社会との連携と園行事についてまとめる。後半、はさみを使ったワークを行う。
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針 P. 5～6 を熟読する。 復習： はさみを使ったワークについての簡易レポートをまとめて提出する。	
第 10 回	テーマ		保育内容の研究①牛乳パックを使った教材研究
	内 容		牛乳パックを使った保育教材（跳ねるおもちゃ）をつくり、教材研究を通して実際に子どもに対して保育する際の留意点を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 教材を準備する。 復習： 教材研究についての簡易レポートをまとめて提出する。	
第 11 回	テーマ		保育内容の研究②小麦粉粘土の教材研究
	内 容		小麦粉粘土の教材研究を通して、実際に子どもに対して保育する際の留意点を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 教材を準備する。 復習： 教材研究についての簡易レポートをまとめて提出する。	
第 12 回	テーマ		子どもの姿と保育者の関わり方について
	内 容		DVD で過去の実習生の保育の様子を視聴し、実際の子どもの姿や保育者としての関わり方を考える。
	授業時間外 学修	予習： 自分なりの子どもの関わり方をイメージしておく。 復習： DVD の内容を基にした簡易レポートをまとめて提出する。	
第 13	テーマ		指導計画（日案）を作成する①
	内 容		第 10～11 回に研究した教材の中から一つ選び、指導計画を作成することを通して作成

	回		上の要点を学ぶ。	
	授業時間外 学修		予習：指導計画に書く保育内容を考えておく。 復習：指導計画を完成させ、提出する。	
	第 14 回	テーマ		保育内容の研究③季節に合わせた制作についての教材研究
		内 容		季節に合わせた制作を各自で考え、その教材研究を通して実際に子どもに対して保育する際の留意点を学ぶ。
		授業時間外 学修		予習：活動内容を考え、教材を準備する。 復習：教材研究についての簡易レポートをまとめて提出する。
	第 15 回	テーマ		指導計画（日案）を作成する②、授業のまとめ
		内 容		第14回の内容についての指導計画を作成することを通して作成上の要点を学ぶ。
		授業時間外 学修		予習：指導計画に書く保育内容を考えておく。 復習：指導計画を完成させる。
教科書・テキスト	保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）			
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編） また、授業中に適宜資料を配布する。			
成績評価の 方法・基準	レポートや日案、課題等の提出物による専門知識の理解や考え方の程度（60%）、授業参加度（15%）、日案作成、教材研究等による「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度（25%）で評価する。			
課題に対する フィードバックの方法	レポートや課題は採点后、添削して返却、または講評を行う。			
授業時間外学修	日案や課題を完成させる。（約5時間） 予習（各授業回約20分）、復習（各授業回約20分）、として、授業計画で示された内容を実施する。（約10時間）			
備 考	—			
連絡先（質問等）	オフィスアワー 金曜日 12時25分～12時50分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。			

授業科目	保育内容総論 [R.3 入学者]		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	花田嘉雄						
ナンバリング	E42S153	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関わる全般的なことを学ぶ授業になる。一つの事例について各自の経験を話し合い、解決方法を探るといったグループワークを行いながら、自分自身の保育観を養う。また、教育実習 I の経験を踏まえながら、責任実習に向けた日案や部分案作成のポイントについて学ぶ。 ・課題遂行においては、手書きの他に、スマートフォン等から Google form への回答の記入を求める場合もある。なお、その場合は当該授業内でフィードバックする。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ・現在の保育が抱える諸問題を考察する。 ・遊びをもとにした保育内容と5領域とのつながりを考えながら、指導計画（日案）を立案する。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション・コミュニケーションについてのグループワーク				
		内容	グループワークを通して、保育や福祉に携わる人に求められるコミュニケーション能力について考える。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを読んでおく。 復習： コミュニケーション能力についての簡易レポートをまとめて提出する。				
	第2回	テーマ	保護者との連携について				
		内容	子育て支援についての概要を学び、保護者との連携についてのシミュレーションをグループワークとして行う。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 保育所保育指針 P.36～37 を熟読する。 復習： 保護者との連携についての簡易レポートをまとめて提出する。				
		テーマ	幼児教育の思想について				
	第4回	内容	倉橋惣造の思想に触れる。				
		授業時間外学修	予習： 倉橋惣造について調べ学習をする。 復習： Google form による課題を記入して提出する。				
	第4回	テーマ	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）				
		内容	保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまで				

	回		に育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針 P. 10～12 を熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 5 回	テーマ		保幼小連携について①
	内 容		小1プロブレム等の現状と、とその対策としての取り組みや連携の現状を理解する。
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針 P. 30～31 を熟読する。 復習： 保幼小連携についての簡易レポートをまとめて提出する。	
第 6 回	テーマ		保幼小連携について②
	内 容		保幼小連携について理解を深め、就学を意識した保育活動を考えてみる。
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針 P. 30～31 を熟読する。 復習： 保幼小連携に適した保育活動の案をまとめて提出する。	
第 7 回	テーマ		災害対策について
	内 容		震災時の保育士の対応についての DVD を基に、災害対策や避難訓練等の大切さを学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 身近な災害について考えておく。 復習： 災害対策についての簡易レポートをまとめて提出する。	
第 8 回	テーマ		子育てをめぐる現状と課題について
	内 容		子育てをめぐる現状と課題、子ども子育て支援新制度についての概要を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 子ども子育て支援新制度について調べ学習をする。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 9 回	テーマ		環境を通して行う保育
	内 容		保育における環境や環境整備についての概要を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針 P. 5～6 を熟読する。 復習： 保育を行う際の環境整備についての簡易レポートをまとめて提出する。	
第 10 回	テーマ		子どもの姿と保育者の関わり方について
	内 容		DVD で過去の実習生の保育の様子を視聴し、実際の子どもの姿や保育者としての関わり方を考える。
	授業時間外 学修	予習： 自分なりの子どもの関わり方をイメージしておく。 復習： DVD の内容を基にした簡易レポートをまとめて提出する。	
第 11 回	テーマ		5領域と保育内容
	内 容		5領域と保育内容のつながりを考え、指導案（日案）の書き方のポイントを押さえる。
	授業時間外 学修	予習： 保育所保育指針 P. 16～30 を熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 12 回	テーマ		指導案（部分案）について
	内 容		指導案（部分案）の要点を押さえて書く。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノート P. 46～49 を熟読する。 復習： 部分案を完成させる。	
第 13 回	テーマ		地域社会との連携と園行事について／園だよりについて
	内 容		地域社会との連携や園行事についてまとめる。後半は園（クラス）だよりの要点をまとめ、行事の招待状としてのたよりのアイディアを考える。

	授業時間外 学修	予習：保育所保育指針 P. 31、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P. 11 を熟読する。 復習：たよりのアイデアを明確にする。
第 14 回	テーマ	園（クラス）だよりを作成する。
	内容	第13回で考案したアイデアを基に、行事の招待状としてのたよりを作成する。
	授業時間外 学修	予習：たよりに必要な材料を準備する。 復習：たよりを完成させる。
第 15 回	テーマ	課題の講評と授業のまとめ
	内容	たより提出とその講評、授業のまとめ。
	授業時間外 学修	予習：今までの授業内容をまとめておく。 復習：講評を基に簡易レポートをまとめて提出する。
教科書・テキスト	保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）	
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編） また、授業中に適宜資料を配布する。	
成績評価の 方法・基準	レポートや部分案、課題等の提出物による専門知識の理解や考え方の程度（60%）、授業参加度（15%）、 たより課題や様々な保育を想定したワークを行うことによる「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程 度（25%）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法	レポートや課題は採点后、添削して返却、または講評を行う。	
授業時間外学修	たより等の課題を完成させる。（約 5 時間） 予習（各授業回約 20 分）、復習（各授業回約 20 分）、として、授業計画で示された内容を実施する。（約 10 時間）	
備 考	—	
連絡先（質問等）	オフィスアワー 金曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	児童文化		授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	下村 沙季						
ナンバリング	E41L154	開講時期	1年次前期	授業時間	30時間	授業回数	15回
必修・選択	保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	配布する資料や現場での実践を紹介しながら、児童文化について学ぶ。グループワークやプレゼンテーション等を通して、他者の考えを受け入れる人材育成の基礎を児童文化の学修の中から理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちの理解と、育ちに合った教材との関わりがわかる。 ・実際に手作りおもちゃの製作を通し、子どもを引きつける保育士としての魅力を身につける。 ・グループワークや絵本、紙芝居等の読み聞かせを通して「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つける」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション・児童文化とは				
		内容	・児童文化とは何なのか基本的な考え方を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 絵本を借りて読む。(3冊)				
	第2回	テーマ	子どもの遊びと生活				
		内容	・子どもの生活の様子、現代の子どもの姿を知る。 ・メディアと子どもについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本を3冊読む。				
	第3回	テーマ	子どもの文化財の成り立ち				
		内容	・子どもの文化財にはどのようなものがあるのかを知る。 ・子どもの文化財それぞれの特徴を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本や紙芝居等を3冊読む。				
	第4回	テーマ	子どもと絵本				
		内容	・絵本とは何か。また、絵本の役割について知る。 ・発達に応じた絵本の選び方を知る。				
		授業時間外学修	予習： 読んだ絵本等の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本等を3冊読む。				
	第5回	テーマ	絵本の読み聞かせの実践①				
		内容	・様々な場面に応じた絵本を図書館内から選ぶ。				

回	授業時間外 学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 選んだ絵本の読み聞かせの練習をする。
	第6回	<p>テーマ 絵本の読み聞かせの実践②</p> <p>内容 場面に応じた絵本を実際に読み聞かせる。</p> <p>授業時間外 学修 予習： 読み聞かせた絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本を3冊読む。</p>
第7回	テーマ	ペープサートを作ろう
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートの世界を知る。 ・ペープサート製作をする。
第8回	授業時間外 学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本を3冊読む。
	テーマ	ペープサートの製作
第9回	内容	工夫しながらペープサート製作を行う。
	授業時間外 学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本を3冊読む。
第10回	テーマ	ペープサートの発表
	内容	・製作したペープサートを、グループに分かれて発表し合う。
第11回	授業時間外 学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本を3冊読む。
	テーマ	伝承遊びとは何か
第12回	内容	・伝承遊びにはどのようなものがあるか、実際に体験しながら学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本を3冊読む。
第13回	テーマ	子どもの発達とおもちゃ
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に合わせたおもちゃの提供が大切であることを学ぶ。 ・自身で作る手作りおもちゃを決定する。
第14回	授業時間外 学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本を3冊読む。
	テーマ	手作りおもちゃ製作①
第15回	内容	自己決定した手作りおもちゃ（課題）の製作を行う。
	授業時間外 学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本を3冊読む。
第16回	テーマ	手作りおもちゃ製作②
	内容	自己決定した手作りおもちゃ（課題）の製作を行う。
第17回	授業時間外 学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。 復習： 好きな絵本を3冊読む。
	テーマ	手作りおもちゃ製作③
第18回	内容	自己決定した手作りおもちゃ（課題）の製作を行う。
	授業時間外 学修	予習： 読んだ絵本の感想をまとめる。

		学修	復習：好きな絵本を3冊読む。
	第 15 回	テーマ	児童文化のまとめ
		内 容	・反省と評価の方法を知り、自己分析の力を身につける。
		授業時間外 学修	予習：読んだ絵本の感想をまとめる。 復習：課題の完成、レポート作成、レポート提出。
教科書・テキスト	なし。		
参考書・参考資料等	児童文化論（同文書院） 保育所保育指針（フレーベル館）		
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りおもちゃ、絵本等の読み聞かせ率、その他発表内容、レポートによる児童文化の理解度（50%） ・「コミュニケーション能力」（3）獲得の程度（35%） ・授業参加度（15%）で評価する。 		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出した小レポートについては、次回の授業にて説明する。		
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習（各授業回約15分）復習（各授業回約15分）として、授業計画で示された内容を実施する。 ・絵本、ペーパーサート等を使ってみたり、おもちゃを作ってみたり実習や現場で使える自分の財産作りを行う。（約8時間） 		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。担当教員は、民間・公立・企業主導型保育所にて計17年間保育士として勤務した経験を持つ。その実務経験を生かし、現場の実例などを挙げながら授業を行う。		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	乳児保育 I		授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	後藤順子						
ナンバリング	E41L155	開講時期	1年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<p>テキストや配布資料を用いて、母親の就業率の増加や出生率の低下により様々な少子化対策が講じられるなかで乳児保育の必要性が社会的にも高まってきていることを学ぶ。</p> <p>乳児(3歳児未満)の発育・発達の特徴を理解し、日常生活における保育者の援助について学び職員間の連携や保護者や地域との連携について理解を深める。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 ・保育所、乳児院等多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	乳児保育の意義・目的と役割①				
		内容	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷について学ぶ。現状と課題について考える。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し要点をまとめる。				
	第2回	テーマ	乳児保育の意義・目的と役割②				
		内容	乳児保育の役割と機能、母子保健施策の概要について学ぶ。 乳児保育における養護及び教育について学ぶ。				
	授業時間外学修	予習： 各自の母子健康手帳を参考にする。 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。					
	第3回	テーマ	乳児保育の現状と課題について①				
		内容	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について学ぶ。				
	授業時間外学修	予習： 「児童虐待」とは？ 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。					
	第4回	テーマ	乳児保育の現状と課題について②				
		内容	保育所における乳児保育について学ぶ。				
	授業時間外学修	予習： 教科書や参考書の「乳児保育の現状と課題」を読み込む。 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。					
	第	テーマ	乳児保育の現状と課題について③				

5 回	内 容	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 「児童福祉施設」って何？ 県内にはどんな施設があるの？ 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。
第 6 回	テーマ	乳児保育の現状と課題について④
	内 容	家庭的保育等における乳児保育について学ぶ。 3歳未満児とその家庭を取りまく環境と子育て支援の場について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 自分の出生時の状況、予防接種の記録、3歳未満児の頃の様子を保護者にインタビューしてみよう！ 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。
第 7 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育①
	内 容	3歳未満児の生活と環境、事故防止について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 「危険がいっぱい！」施設や家庭内にどんなものがあるのかな？ 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。
第 8 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育②
	内 容	3歳未満児の遊びと環境について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 3歳未満児の頃の様子を保護者にインタビューした結果をまとめる。 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。
第 9 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育③
	内 容	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 「保育所保育指針」をしっかりと読むこと！ 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。
第 10 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育④
	内 容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりについて学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 「食育」って何、皆さんは「毎日どんな食事している？」考えてみよう！ 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。
第 11 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑤
	内 容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習での体験を振り返り、保育における配慮についてまとめておく。 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。
第 12 回	テーマ	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育⑥
	内 容	乳児保育における計画・記録・評価とその意義について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 保育所における全体的な指導計画、月間指導計画、週間指導計画、 デイリープログラム、個別計画について予習しておくこと。 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。
第 13 回	テーマ	乳児保育における連携・協働①
	内 容	職員間の連携・協働について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 職員間で共有して置くべき情報とは何かな？ 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。

	第 14 回	テーマ	乳児保育における連携・協働②
		内 容	保護者との連携・協働について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 保護者から出される悩みにどのように対応すればいいの？ 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。
	第 15 回	テーマ	乳児保育における連携・協働③
		内 容	自治体や地域の関係機関との連携・協働について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： あなたの身近なところに子育て支援の場（親子が集う場）あるかな？ 復習： 授業内容を見直し要点や疑問点をまとめておく。	
第 16 回	定期試験		
教科書・テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ（新・基本保育シリーズ⑮）2019年3月第1版（中央法規出版） 国民衛生の動向2020/2021（厚生労働省統計協会）		
参考書・参考資料等	保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
成績評価の 方法・基準	試験とレポートにより、乳児の状況の把握方法や養護の方法についての理解の程度（70%） 「コミュニケーション能力」（1）獲得の程度（20%） 授業参加度（10%） で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては次回の授業にて解説する。 定期試験については採点后講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は県職員として病院や保健所に長年勤務し、山形県立保健医療大学でも実務経験を持つ。		
連絡先（質問等）	授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	乳児保育Ⅱ		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	後藤順子						
ナンバリング	E41S156	開講時期	1年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	子どもが健やかに成長発達する基本は健康である。演習を通じて、子どもの健康状態並びに発育・発達の把握、健康増進及び安全な環境を基礎とし保育の場において実践できる応用的能力を養う知識と技術を学び、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもたちの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 ・上記3点を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	乳児保育の基本①				
		内容	子どもと保育士等との関係の重要性について考える。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を振り返り要点をまとめる。				
	第2回	テーマ	乳児保育の基本②				
		内容	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 実習や子どもとのふれあいで体験したイメージを整理しておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。				
	第3回	テーマ	乳児保育の基本③				
		内容	子どもの主体性の尊重と自己の育ちを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 「保育所蘇育指針」を読み込んでみる。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。				
	第4回	テーマ	乳児保育の基本④				
		内容	子どもの体験と学びの芽生えについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 実習での体験を振り返り、子どもの体験と芽生えについてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。				
	第	テーマ	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際				

5 回	内 容	子どもの1日の生活の流れと保育の環境について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 「保育所蘇育指針」を読み込んでみる。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第 6 回	テーマ	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①
	内 容	子どもの生活や遊びを支える環境の構成について考える。
第 7 回	授業時間外 学修	予習： 実習での体験を振り返り、子どもの生活や環境についてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
	テーマ	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②
第 8 回	内 容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習での体験を振り返り、生活と援助の実際についてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第 9 回	テーマ	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③
	内 容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について学ぶ。 子ども同士の関わりとその援助の実際について学ぶ。
第 10 回	授業時間外 学修	予習： 実習での体験を振り返り、生活と遊びと援助の実際についてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
	テーマ	保育実習保育所からの学びを話し合おう！①
第 11 回	内 容	グループディスカッション
	授業時間外 学修	予習： 保育実習保育所で学んだものを抽出してみよう！ 復習： グループ別発表資料をまとめる。
第 12 回	テーマ	保育実習保育所からの学びを話し合おう！②
	内 容	グループ別発表
第 13 回	授業時間外 学修	予習： 保育実習保育所で学んだものを抽出してみよう！ プレゼンテーションを効果的に行う。 プレゼンターに要求される伝達スキルを磨いていく。 復習： グループディスカッションを振り返りながら、「保育実習保育所を通して学んだこと」の個人レポートを作成する。
	テーマ	乳児保育における配慮の実際①
第 14 回	内 容	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習での体験を振り返り、配慮の実際についてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第 15 回	テーマ	乳児保育における配慮の実際②
	内 容	集団での生活における配慮について学ぶ。
第 16 回	授業時間外 学修	予習： 実習での体験を振り返り、集団生活での配慮についてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
	テーマ	乳児保育における配慮の実際③
第 17 回	内 容	環境の変化や移行に対する配慮について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習での体験を振り返り、子どもを取り巻く環境についてまとめておく。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。

	第 14 回	テーマ	乳児保育における計画の実際①
		内 容	長期的な指導計画と短期的な指導計画について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 保育実習保育所で学んだ指導計画について振り返る。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
	第 15 回	テーマ	乳児保育における計画の実際②
		内 容	個別的な指導計画と集団の指導計画について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 乳児保育Ⅱで学んだことをレポートにまとめる。 復習： 授業内容を振り返り要点や疑問点をまとめておく。
第 16 回		定期試験	
教科書・テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ（新・基本保育シリーズ⑬）2019年3月第1版（中央法規出版）		
参考書・参考資料等	国民衛生の動向 2020/2021（厚生労働省統計協会） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）		
成績評価の 方法・基準	演習態度・レポートにより、乳児保育の理解の程度（50%） 「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度（30%） 授業参加度・態度（20%） で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては次回の授業にて解説する。 定期試験については採点后講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は県職員として病院や保健所に長年勤務し、山形県立保健医療大学でも実務経験を持つ。		
連絡先（質問等）	授業前後に教室にて質問を受け付ける。		